



6. 土壌汚染による 環境リスクとは？

(1) 土壌汚染による環境リスクの考え方

人の健康や生活環境、生態系へ悪い影響を及ぼすおそれ(可能性)のことを“環境リスク”といいます。きちんと環境リスクに応じた対策をとればリスクを低くしたり、回避することができます。そのため、環境リスクの考え方を理解することも大切です。

土壌汚染の環境リスクの大きさは、土が有害な物質で汚染された有害性の程度(土の有害性の程度)と、土壌汚染の原因となっている有害な物質を体内に取り込む量(暴露量)とで決まります。

暴露とは、汚染された土が手にくっついて、知らず知らずに土を口に入れてしまったり、汚染された土が飛び散って口に入ってしまったたり、汚染された土から有害な物質が溶け出した地下水を飲んだりして体内にとりいれることをいいます。

環境リスクの大きさは次のようになります。

$$\text{土壌汚染による環境リスク} = \text{土の有害性の程度} \times \text{暴露量}$$

そのため、汚染されている土に触れることがないとか、汚染された土から有害物質が地下水に溶け出さなかったり、たとえ溶け出しても、汚染された地下水を飲んでいない場合、すなわち、暴露がない(暴露量がゼロ)と考えられる場合には、土壌汚染による環境リスクは問題にならなくなります。

また、基準以下に浄化された土であれば、暴露があったとしても環境リスクは許容されるレベル以下になります。